

答え合わせ・解説

問1	答え 4 神札	「ええじゃないか」は、天から神札（伊勢神宮などの護符）が降ってきたという噂が各地に広がり、民衆がそれをきっかけに歌い踊りながら練り歩いた民衆運動です。当時の支配体制に対する不満や、今の世の中が大きく変わることに期待が背景にありました。
問2	答え 2 蒸気機関	蒸気機関は、水を沸騰させて発生する蒸気力で機械を動かす技術です。この技術を船舶に応用したものが蒸気船であり、風の力に頼らずに航行できるため、当時の軍事力や輸送力の象徴となりました。ペリーが使用した黒船も、この蒸気機関による強力な推進力を備えていました。
問3	答え 4 龜山社中	坂本龍馬が土佐藩などを脱藩した志士たちと共に、長崎で設立したのが龜山社中です。単なる商社ではなく、薩長同盟を裏から支えるような兵器の購入や運搬、さらには海運業を担う組織として活動しました。これが、後の海援隊へと発展していくこととなります。
問4	答え 1 井伊直弼	井伊直弼は幕府の老老として、朝廷の許可（勅許）を得ないままアメリカと日米修好通商条約を結び、横浜などを開港しました。これによって自由貿易が開始されましたが、反発を強めた攘夷派を安政の大獄で厳しく弾圧したため、恨みを買うこととなりました。
問5	答え 4 尊王	尊王思想は、天皇をあがめるという考え方です。これに「外国勢力を排除せよ」という攘夷思想が結びつき、「尊王攘夷」という強力な運動が生まれました。幕府の統治に疑問を持つ志士たちの精神的な支柱となりました。
問6	答え 2 品不足	輸出の増加により国内の在庫が減り、供給が不足しました。さらに、金貨の流出や幕府による貨幣改鑄が重なり、お金の価値が下がって物価が異常なほど高騰しました。庶民にとって不可欠な米の価格も上がり、生活は困窮を極めました。
問7	答え 1 小判	幕府は金の含有量を減らした新たな小判を鑄造し、流通量を増やすことで対応を試みました。しかし、通貨の質が落ちたことは世間に周知され、貨幣に対する信用が低下して経済的混乱を助長しました。
問8	答え 4 リンカーン	リンカーンは奴隷制の拡大に反対する立場から大統領に選ばれました。1861年に南北戦争が始まると、彼は1863年に奴隷解放宣言を出し、戦いの目的を単なる国家統一から人道的な奴隷解放へと広げ、戦局を有利に導きました。
問9	答え 2 四国艦隊	1864年、イギリス・フランス・アメリカ・オランダの四カ国は艦隊を編成し、下関を砲撃しました。この「四国艦隊下関砲撃事件」により、長州藩の砲台は破壊され、多額の賠償金も課せられることになりました。
問10	答え 2 金銀交換比率	当時の日本は「金：銀＝1：5」程度でしたが、欧米では「1：15」程度でした。そのため、外国商人は日本へ銀を持ち込み、割安な比率で金と交換して持ち出すことで莫大な利益を得ました。この結果、日本の金が急速に海外へ流出し、幕府の財政は悪化しました。
問11	答え 1 四国連合艦隊	1864年、イギリス・フランス・アメリカ・オランダの4カ国が連合艦隊を結成し、長州藩の下関の砲台を激しく攻撃しました。圧倒的な軍事力の差を目の当たりにした長州藩は、攘夷の実行が現実的ではないことを悟りました。
問12	答え 4 金貨	当時の日本は金銀比価が金安だったため、外国人商人が銀を持ち込んで日本の金貨と交換し、それを海外で金と交換して大きな利益を得る「金銀交換比率の差を利用した投機」が横行しました。これにより、国内の金貨が急速に海外へ流出しました。
問13	答え 1 衝撃	「黒船」は単なる船ではなく、当時の日本の軍事力の限界を突きつける近代兵器の塊でした。幕府の役人や市井の人々は、かつてない強大な力に圧倒され、国家の存続を脅かす事態に強い精神的な揺らぎを覚えました。当時の狂歌に詠まれるほど、この出来事は人々の記憶に強く刻まれました。
問14	答え 1 領事裁判権	日米修好通商条約は、日本にとって「領事裁判権」を認めず、「関税自主権」もないという、主権を侵害された極めて不平等な内容でした。領事裁判権とは、日本にいる外国人が罪を犯しても、日本が日本の法律で裁くことができず、その外国人の国の領事が自国の法律で裁く権利のことです。